

船舶の成聖祈禱

君や
祝讃せば。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。
天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖二者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦ゆる。聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等を
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か

誦 司

主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、
ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百六聖詠

の食を厭い、彼等は死の門に近づけり。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患より救い、其言を遣して彼等を癒し、彼等を其墓より脱せり。主を其憐と、其人の諸子の為に行いし奇跡に縁りて讚美するべし。彼に献じ、歌を以て其作為を宣ぶべし。舟に乗りて海に浮び、事を大水に行う者は、主の作為を見、其奇跡を淵に見る、彼言え巴、暴風起りて、高く其波を騰ぐ、天に升り、淵に降り、彼等の靈は患難に因りて消えんとす、彼等は轉び且搖らること醉える者の如し、其悉くの智恵は消ゆ。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より引き出せり。彼は狂風を変じて平穏となす、波は平なり。彼等の静なるを樂む、主は彼等を携えて其の望む所の埠に至らしむ。主を其憐と、其人の諸子の為に行いし奇跡に縁りて讚美するべし。彼を民の会に尊崇し、彼を長老の会に讃美すべし。彼は河を変じて野となし、泉を変じて槁壟となし、豊なる地を変じて歎の地となす、此に住む者の不虔に因りてなり。彼は野を変じて池となし、乾ける地を変じて泉となし、餒うる者を彼處に居らしむ、彼等は住居の為に城邑を建て、田に種を蒔き、葡萄園を作り、多く其実を得るなり。主は彼等に福を降し、大に彼等を増加せしめ、彼等の家畜をも減

主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世世にあればなり。主に救われし者は此くの如く云うべし、即主が敵の手より救い、各地より集め、東より西より北より海より集めし者なり。彼等は曠野に、人なき途に徨い、人の住える城邑の住える城邑に往かしめたり。主を其憐と、其人の諸子の為に行いし奇縁に縁りて讃榮すべし、蓋彼は渴ける靈を満たせ、飢うる靈を善き物に飽かしめたり。彼等は闇冥と死の蔭に坐し、憂と鐵に縛られたり、蓋神の言に従わず、至上者の旨を軽んぜり。主は苦労を以て彼等の心を降せり、彼等渴きて助くる者なかりき。然れども其憂の中に主に呼びたれば、主は彼等を其患難より救い、彼等を闇冥と死の蔭より引き出し、其縛を截てり。主を其憐と、其人の諸子の為に行いし奇縁に縁りて讃榮すべし、蓋彼は銅の門を破り、鐵の柱を折けり。不智なる者は其不法の途と其不義の為に苦めり、彼等の靈は凡

トロパリ（第一調）

司　此の船（舟）〔某〕は、此の聖水の灌（そそ）がるるを以て降福・成聖せらる、父及び子
及び聖神の名に依りてなり。（三次）
アミン。（毎時応答する）

いのち
生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光栄なる聖預言者・前駆・授
洗イオアン、光栄にして讃美たる聖使徒、聖（某）、亞使徒日本の大主教聖ニコ
ライ、及び諸聖人の轉達に因りてなり、
蓋我等の神や、爾は一切を掌（つかさど）り、及び聖にする主なり、我等光栄・感謝・伏拝
を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に
アミン。

詠

司　主我等の先祖の神、爾の僕ノイに、世界の救（すくい）の為に舟を造るを命じ、其多くの
木より組み立てられて一の木と為るを嘉（よみ）し、親（みずか）ら甘んじて靈（なき）木を（つかさど）り、
及び有能の手を以て人類を救う萬有（ばんゆう）の主宰（しゅさい）や、今も主（みずか）や、爾（つね）親（みずか）ら此の船を護（まも）り、
此に平安の善神使（よきしんし）を與（あた）え、此に乗りて航海（こうか）する者を守護（しゆご）し、恒（つね）に彼等（かれら）に壯健（いのり）にし
て往復（わうふく）するを得（え）しめ給（さへ）え、至（しじょう）淨（じょう）なる我等（われら）の女宰（じょさい）生神女（めいしんじょ）永貞童女（えいじょうとうじょ）マリヤの祈（いのり）と、
主（みずか）憐（あわれ）めよ。

詠　主に祈（いのり）らん。

祝　主憐（あわれ）めよ。

文　主は辱（はずかしめ）を牧伯（ぼくはく）其族（そぞく）を

らさず。迫害（はくがい）と苦難（くなん）と憂患（ゆうかん）によりて、彼等（かれら）滅（げん）ぜられて衰（おとろ）えたり、主は辱（はずかしめ）を
に被（こうむ）らせ、其路（ごと）なき野（の）に徨（さまよ）うに任（まか）す。惟（ただまます）貧（かんなん）しき者（ひと）を患難（ほんなん）より引き（ひき）出し（だ）し、其族（そぞく）を
羊（ひつじ）の群（ぐん）の如（ごと）くに増（ま）す。義（ぎ）人は（ひと）は之（これ）を見て（み）て悦（よろこ）び、凡（およそ）の不法（ふひ）は其（その）口（くち）を塞（ふさ）ぐ。智（ち）なる
者は此（これ）を鑑（かん）みて主（みずか）の憐（あわれ）みを悟（さと）らん。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾（つね）に帰す。（三次）

※（司祭は、船（舟）に聖水を灌いで謂う。）

※（もし、船全体に聖水を灌ぐ時は、左のトロパリを歌いながら廻る。）

輔
主や、今此處に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壯
健と救贍、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。
幾歳も。　（三次）

※司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を灌ぎ祝福する。（そそ

輔
睿智。
至聖なる生神女や、我等を救い給え。
ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生み
し、実の生神女たる爾を崇め讃む。
ハリストス神我等の侍や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。
光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降せ。
アミン。
司
ハリストス我等の眞の神は、その至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒
日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は
善にして人を愛する主なればなり。

主や、爾の民を救い、爾の業に福を降せ、我が國に福を與え、爾の十字架に
て、爾の住處を護り給え。（必要に応じて繰り返し歌う。）